

# 中川市長、補聴器購入補助制度の検討を約束 「柿崎病院は県立での運営を求めると答弁

中川幹太新市長に13日、初めて一般質問をしました。私は難聴対策と医療問題、特に病院再編の中心に聞きました。新市長の答弁は簡潔で、正面から答えようとしているので、好感が持てました。



【ヒメオドリコソウ】  
(再掲) シソ科の越年草。漢字で「姫踊り子草」と書きます。ピンク色の花は子どもがピンクの服を着て踊っている姿に似ています。花期は3月～6月。でも、最近は11月、12月でも花を見かけます。これも地球温暖化の影響でしょうか。花言葉は「快活」「陽気」「愛嬌」。写真は12月11日、吉川区代石にて撮影しました。

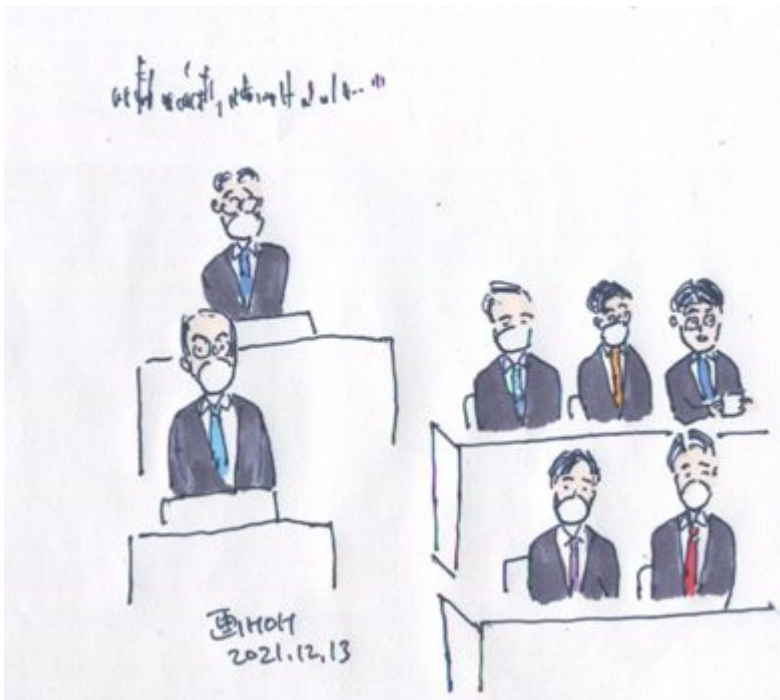
最初に難聴対策をとりあげ、補聴器購入補助制度の実施を求めました。私は、「難聴者にお聞きすると、耳の聞こえが悪くなって、会話が成立しなくなる、いろいろな感が強まる、家族、友人などの信頼関係がこわれるなどの訴えがあり、実に深刻」「新潟県内では、補聴器購入補助制度が三条、見附、加茂、湯沢など11市町村に広がっている」などこのへ、当市においても、18歳以上の軽度、中度難聴者を対象に実施するよう求めました。

市長は、「現在、18歳以上の軽・中等度難聴者への支援は行っていないが、軽・中等度難聴者の皆さんの中には、18歳以降も日常生活を送る上で補聴器が欠かせない方もおられ、このほかにも、突発性難聴の発症などにより、新たに補聴器が必要となる方もおられる。補聴器の購入補助を行う自治体が増えていることは承知している。市としても、今後の補助制度の在り方について検討してまいりたい」と答えました。

て、20万床もの急性期病床の削減を進めようとしていると指摘し、次の3点について質問しました。  
①新潟県による県立柿崎病院の上越市への移譲方針をどう見ているか。村山前市長は、この点に関しては、「市としては受けられない。ぜひ県営で維持してほしい」と良識ある態度を貫かれた。中川市長はどうか。  
②「中核病院」(具体的には県立中央病院)への医師の集中配備についてどう考えるか。  
③3日に厚生労働省は上越(医療)構想区域について、「重点支援区域」に指定したが、厚労省の医療再編、病床削減につながるのではないか。これに対して中川市長の答弁は次の通りでした。



日本共産党の遠藤玲子県議と共に県立中央病院を視察した際、丁寧に説明して下さった長谷川病院長と事務局長。



新市長への最初の質問でこのような前向きな答弁はとてもうれしかったです。2つ目のテーマは医療問題についてです。ご案内のように、いま、新型コロナウイルスのオミクロン株への対応が国民の最大関心事となっていてます。こうしたなかで、岸田総理は所信表明のなかで「公立公的病院に、法律に基づく要請をして、新型コロナウイルスの専用病床化を進める」と言う一方で、「地域医療構想」の名のもとに、436もの公立公的病院をリストアップし、統廃合計画を進め、消費税を財源にし

か、9つの診療所を運営していること」や、「厚生連病院に対する財政支援もを行っていること」などから、「柿崎病院の経営主体となることは財政負担や医師確保の面からも困難である」だとして、引き続き、県による柿崎病院の運営を求めてまいりたい。

①「上越地域医療センター病院のほか、9つの診療所を運営していること」や、「厚生連病院に対する財政支援もを行っていること」などから、「柿崎病院の経営主体となることは財政負担や医師確保の面からも困難である」だとして、引き続き、県による柿崎病院の運営を求めてまいりたい。

②(県が本年4月に策定した「持続可能で質の高い医療を提供し続けるための新潟県地域医療構想の実現に向けた今後の方向性」の内容を紹介しながら)「市としては、専門的医療から在宅医療まで市民が必要とする医療を、地域全体で安定的に提供できる医療体制の運営を求めてまいりたい。

③「区域内の人工透析医療体制の確保が喫緊の課題であること」、また、「医療機能の再編議論を進める上で国の後押しが必要であること」を理由として、国から地域の医療機関に関するデータ分析などの「技術的支援」や、医療機能を再編する場合の「財政的支援」を得ることを目的とするとされている。専門的医療から在宅医療まで、市民が必要とする医療が、地域全体で安定的に提供できる医療体制が確保されていくことを期待している。

この中で、「重点支援地域」の指定に関する認識に市長と私にズレがあることが判明。私は、新潟県や厚労省が出している文書を基に、厚労省の病院再編、病床削減につながるものだということを明らかにし、認識を改めて対応してほしいと要請しました。

## はしづめ法一の活動レポート

**No.2041 2021.12.19**  
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg\_0808@yahoo.co.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら  
橋爪法一 検索

# 春よ来い

## 第六八八回

### 朗読

「上がればいいくて」……玄関で、「橋爪です」と声をかけたら、そう言って返事をしてくれたのは「でみせ」（屋号）のキヨコさんです。

初めて出会ってから四十数年、長年の付き合いで声も顔もすべわかるキヨコさんはいま八〇代の半ばくらいでしょうか。いつも気軽に言葉を交わしています。

居間の上がらせてもらって、「今度の本、おまんのこと書いたがも載せたがど」と言って、私は、すぐにその文章を朗読しはじめました。

――マサヒロさん、死んじゃったねえー。高見盛が負けたときに見せたような顔をしてそう言ったのは「でみせ」のばーちゃん、キヨコさんです……。

そこまで読んだら、キヨコさんはもう「あはははは」と声を上げました。本に載せた文章というのは、私の最新エッセイ集『じゃがじゃが煮』のなかの「最後の涙」という話です。吉川区尾神で生まれ、長く尾神郵便局に勤めていたマサヒロさんとほぼ同年代のキヨコさんが柿崎病院でマサヒロさんと最後に会った時のことを書いた切ない、悲しい話なんです。キヨコさんは、当口のことをすぐに思い出したようでした。

マサヒロさんは私もよく知っていた人で、顔だけでなく如才ないしゃべりっぷりもよく知っています。朗読の際には、マサヒロさんのしゃべりに似せて読みました。

――マサヒロさんから「おれ、分からんか」と声をかけられたキヨコさんは、黒っぽい大きな顔を見てびっくり、「わからんくて、そんげなかつこつこつら」と言い返しました。

キヨコさんは「おれ、分からんか」と読んだところでまた笑い、「わからんくて、そんげなかつこつこつら」という自分の言葉でも大笑いしました。マサヒロさん

はこの日、柿崎病院の待合室で、頭がすっぽり入るほどの大きな帽子をかぶっていたのです。キヨコさんは、よほどその格好が印象に残っていたのでしようね。

さらに読み続けました。――「あまいけの西」（屋号）のマサヒロさん、あの通りの真っ黒い顔だろ、それなのに赤い蝶ネクタイつけてさあ、おれは似合わんと思っていたがだでも、本人は気に入っていたげらで、しばらくつけていたこてー。

キヨコさん、今度は笑わずに、「真っ黒い顔」のところと「赤い蝶ネクタイつけてさあ」のところを「そいが、そいが」と相槌（あいづち）を打ちました。

それから笑ったり、相槌を打ったり……。キヨコさん一人を聞き手にした私の朗読は、ぎこちないものでしたが、キヨコさんは一生懸命聴いてくださいました。そして文章の最後です。

――さて、キヨコさんとマサヒロさんの最後の出会いの最後です。キヨコさんが言いました。「あの日、西のあんちゃと病院出る時も一緒になったがど。おれにさー、手、振ってサイナラしてくれたがよ。そんなさー、目に涙うかべてんがねかね。うれしかったこてー」。そう言うキヨコさんも目がうるんでいました。

朗読はそこで終わりののですが、キヨコさんの顔を見たら、涙目になっていることがわかりました。改めて、マサヒロさんとの最後の別れの場面が思い浮かび、ぐっときたのでしよう。

これまで私は、朗読については小田順子さんや北井さくらさんなどその道のプロの方にやってもらえばいいと思っていました。でも、たまには自分で読むのもいいかもしれな

い、そんな気がしてきました。今度、この『朗読』を読んだら、キヨコさん、また大笑いしてくんなるかどうか……。

## 「クリスマスきらきら大作戦」は最高の人出

### ニュースフラッシュ

#### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

|        | 12月8日(水) | 12月15日(水) |
|--------|----------|-----------|
| 上越南消防署 | 0.053    | 0.047     |
| 上越北消防署 | 0.040    | 0.047     |
| 新井消防署  | 0.057    | 0.057     |
| 頸北消防署  | 0.057    | 0.047     |
| 頸南消防署  | 0.060    | 0.053     |
| 東頸消防署  | 0.047    | 0.043     |
| 名立分遣所  | 0.063    | 0.060     |
| 高士分遣所  | 0.057    | 0.057     |

「よしかわクリスマスきらきら大作戦」（吉川商工会主催）が今年も行われました。昨年は200人ほどの参加で、最高の人出と思っていたら、今回はそれを大きく上回る人たち（400人くらいか）が集まりました。途中から雨がぱらぱら来ましたが、雨もきらきらには負けたようです。

今回も山崎弘子さん率いる「JのY. Gospel」（ジョイ・ガスペル）のみなさんが歌うクリスマスソングに酔いしれました。パワーがあって迫力満点でした。ね。「きよしこの夜」の全員合唱もありました。

会場では屋台も並び、うどん、焼き芋など人気でした。私も美味しくいただきました。そして、日頃、なかなか会えない人たちとも話が出来



ました。みんなマスクをしているので、いつもと違って見えることがあります。「おー、素敵な人がいる」と思っていたら、その女性が私のそばまでやってきて……。 「あらまあ、おまんか」と言うと、「私もいい女よ」。二人で大笑いしました。

花火は19時半からの打ち上げ場所は旧新潟事業事務所近くの農道です。12月の冬の花火もいいもんですね。30分近くも大空を花火で彩りました。（イラストは橋爪作成）

# 春よ来い

## 第六八八回

### 朗読

「上がればいいくて」……玄関で、「橋爪です」と声をかけたら、そう言って返事をしてくれたのは「でみせ」（屋号）のキヨコさんです。

初めて出会ってから四十数年、長年の付き合いいで声も顔もすぐわかるキヨコさんはいま八〇代の半ばくらいでしょうか。いつも気軽に言葉を交わしています。

居間の上がらせてもらって、「今度の本、おまんのこと書いたがも載せたがど」と言って、私は、すぐにその文章を朗読しはじめました。

「マサヒロさん、死んじゃったねえー。高見盛が負けたときに見せたような顔をしてそう言ったのは「でみせ」のばーちゃん、キヨコさんです……」

「あはははは」と声を上げました。本に載せた文章というのは、私の最新エッセイ集『じゃがじゃが煮』のなかの「最後の涙」という話です。吉川区尾神で生まれ、長く尾神郵便局に勤めていたマサヒロさんとほぼ同年代のキヨコさんが柿崎病院でマサヒロさんと最後に会った時のことを書いた切ない、悲しい話なんです。キヨコさんは、当日のことをすぐに思い出したようでした。

マサヒロさんは私もよく知っていた人で、顔だけでなく如才ないしゃべりっぷりもよく知っています。朗読の際には、マサヒロさんのしゃべりに似せて読みました。

「マサヒロさんから「おれ、分かんがが」と声をかけられたキヨコさんは、黒っぽい大きな顔を見てびっくり、「わからんくて、そんげなかつこしてりゃ」と言い返しました。

キヨコさんは「おれ、分かんがが」と読んだところでまた笑い、「わからんくて、そんげなかつこしてりゃ」という自分の言葉でも大笑いしました。マサヒロさん

はこの日、柿崎病院の待合室で、頭がすっぽり入るほどの大きな帽子をかぶっていたのです。キヨコさんは、よほどその格好が印象に残っていたのでしょうか。

「あまいけの西」（屋号）のマサヒロさん、あの通りの真っ黒い顔だろ、それなのに赤い蝶ネクタイつけてさあ、おれは似合わんと思っていたがだでも、本人は気に入っていたげらで、しばらくつけていたこと！

キヨコさん、今度は笑わずに、「真っ黒い顔」ところと「赤い蝶ネクタイつけてさあ」ところで「そいが、そいが」と相槌（あいづち）を打ちました。

それからは笑ったり、相槌を打ったり……キヨコさん一人を聞き手にした私の朗読は、ぎこちないものでしたが、キヨコさんは一生懸命聴いてくださいました。そして文章の最後です。

「さて、キヨコさんとマサヒロさんの最後の出会いの最後です。キヨコさんが言いました。「あの日、西のあんちゃと病院出る時も一緒になったがど。おれにさー、手、振ってサイナラしてくれたがよ。そんなさー、目に涙うかべてんがねかね。うれしかったことー」。そう言うキヨコさんも目がうるんでいました。

朗読はそこで終わりののですが、キヨコさんの顔を見たら、涙目になってることがわかりました。ここで改めて、マサヒロさんとの最後の別れの場面が思い浮かび、ぐっときたのでしょうか。

これまで私は、朗読については小田順子さんや北井さくらさんなどその道のプロの方にやってもらえばいいと思っていました。でも、たまには自分で読むのもいいかもしれない、そんな気がしました。今度、この『朗読』を読んだら、キヨコさん、また大笑いしてくんなるかどうか……。

## 大島区熊田町内会が「思い出アルバム」などを制作

### ニュースフラッシュ

#### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

|        | 12月8日(水) | 12月15日(水) |
|--------|----------|-----------|
| 上越南消防署 | 0.053    | 0.047     |
| 上越北消防署 | 0.040    | 0.047     |
| 新井消防署  | 0.057    | 0.057     |
| 頸北消防署  | 0.057    | 0.047     |
| 頸南消防署  | 0.060    | 0.053     |
| 東頸消防署  | 0.047    | 0.043     |
| 名立分遣所  | 0.063    | 0.060     |
| 高士分遣所  | 0.057    | 0.057     |

大島区熊田町内会がこのほど「思い出アルバム」「思い出ビデオ」を制作し、その試写会が12日、熊田町内会の集会場で開かれ、私も参加してきました。この取組は地域活動支援事業を活用して行われました。

集会場の大きなディスプレイに最初に映し出されたのは、現在、熊田に住んでいる人たちの家とそこに住む人たちの姿です。ドローンを使った上からの動画は普段見ることができないものだけに新鮮でした。バックで流れる音楽も素敵でした。なかには、「梅干しのツボの中に赤いシソの葉を敷いてやると、きれいな色と味に仕上がります」などのコメントも入っていて、工夫がしてありました。面白いと思ったのは飯田静江さんの「茶筒ダンス」です。茶筒と両



手を動かして、踊りにしていました。こんな楽しい遊び、誰が考えたのでしょうか。今度、取材に行きたくなりました。

町内会がこれまで取り組んできた事業や昔の懐かしい写真も映し出されました。昔の写真は私が生きてきた時代の物も多く、引き込まれました。町内会が地域活動支援事業を活用した取組の画像の中には私の大きな体も写っていました(笑)。

# 春よ来い

## 第六八八回

### 朗読

「上がればいいって」……玄関で、「橋爪です」と声をかけたら、そう言って返事をしてくれたのは「でみせ」（屋号）のキヨコさんです。

初めて出会ってから四十数年、長年の付き合いで声も顔もすぐわかるキヨコさんはいま八〇代の半ばくらいでしょうか。いつも気軽に言葉を交わしています。

居間の上がらせてもらって、「今度の本、おまんのこと書いたがも載せたがど」と言って、私は、すぐにその文章を朗読しはじめました。

――マサヒロさん、死んじゃったねえー。高見盛が負けたときに見せたような顔をしてそう言ったのは「でみせ」のばーちゃん、キヨコさんです……。

そこまで読んだら、キヨコさんはもう「あはははは」と声を上げました。本に載せた文章というのは、私の最新エッセイ集『じゃがじゃが煮』のなかの「最後の涙」という話です。吉川区尾神で生まれ、長く尾神郵便局に勤めていたマサヒロさんとほぼ同年代のキヨコさんが柿崎病院でマサヒロさんと最後に会った時のことを書いた切ない、悲しい話なんです。キヨコさんは、当口のことをすぐに思い出したようでした。

マサヒロさんは私もよく知っていた人で、顔だけでなく如才ないしゃべりっぷりもよく知っています。朗読の際には、マサヒロさんのしゃべりに似せて読みました。

――マサヒロさんから「おれ、分からんか」と声をかけられたキヨコさんは、黒っぽい大きな顔を見てびっくり、「わからんくて、そんげなかつこつこつら」と言い返しました。

キヨコさんは「おれ、分からんか」と読んだところでまた笑い、「わからんくて、そんげなかつこつこつら」という自分の言葉でも大笑いしました。マサヒロさん

はこの日、柿崎病院の待合室で、頭がすっぽり入るほどの大きな帽子をかぶっていたのです。キヨコさんは、よほどその格好が印象に残っていたのでしょうか。

――「あまいけの西」（屋号）のマサヒロさん、あの通りの真っ黒い顔だろ、それなのに赤い蝶ネクタイつけてさあ、おれは似合わんと思っていたがだでも、本人は気に入っていたげらで、しばらくつけていたこと！

キヨコさん、今度は笑わずに、「真っ黒い顔」ところと「赤い蝶ネクタイつけてさあ」のところを「そいが、そいが」と相槌（あいづち）を打ちました。

それから笑ったり、相槌を打ったり……。キヨコさん一人を聞き手にした私の朗読は、ぎこちないものでしたが、キヨコさんは一生懸命聴いてくださいました。そして文章の最後です。

――さて、キヨコさんとマサヒロさんの最後の出会いの最後です。キヨコさんが言いました。「あの日、西のあんちゃと病院出る時も一緒になったがど。おれにさー、手、振ってサイナラしてくれたがよ。そんなさー、目に涙うかべてんがねかね。うれしかったことー」。そう言うキヨコさんも目がうるんでいました。

朗読はそこで終わりののですが、キヨコさんの顔を見たら、涙目になっていることがわかりました。改めて、マサヒロさんとの最後の別れの場面が思い浮かび、ぐっときたのでしよう。

これまで私は、朗読については小田順子さんや北井さくらさんなどその道のプロの方にやってもらえばいいと思っていました。でも、たまには自分で読むのもいいかもしれない、そんな気がしてきました。今度、この『朗読』を読んだら、キヨコさん、また大笑いしてくんなるかどうかが……。

## 「クリスマスきらきら大作戦」は最高の人出

「よしかおクリスマスきらきら大作戦」（吉川商工会主催）が今年も行われました。昨年は200人ほどの参加で、最高の人出と思っていたら、今回はそれを大きく上回る人たち（400人くらいか）が集まりました。途中から雨がぽらぽら来ましたが、雨もきらきらには負けたようです。

今回も山崎弘子さん率いる「JのY. Gospel」（ジョイ・ゴスペル）のみなさんが歌うクリスマスソングに酔いしれました。パワーがあって迫力満点でした。ね。「きよしこの夜」の全員合唱もありました。会場では屋台も並び、うどん、焼き芋など人気でした。私も美味しくいただきました。そして、日頃、なかなか会えない人たちとも話が出来ました。

花火は19時半から。打ち上げ場所は旧新潟事業事務所近くの農道です。12月の冬の花火もいいもんです。



ね。30分近くも大空を花火で彩りました。（イラストは橋爪）

### 年末のお寺の掲示板

年末になり、市内各地のお寺の掲示板も変わってきています。写真は柿崎区の浄善寺のもの、いいですね。



## ニュースフラッシュ

### 上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

|        | 12月8日(水) | 12月15日(水) |
|--------|----------|-----------|
| 上越南消防署 | 0.053    | 0.047     |
| 上越北消防署 | 0.040    | 0.047     |
| 新井消防署  | 0.057    | 0.057     |
| 頸北消防署  | 0.057    | 0.047     |
| 頸南消防署  | 0.060    | 0.053     |
| 東頸消防署  | 0.047    | 0.043     |
| 名立分遣所  | 0.063    | 0.060     |
| 高士分遣所  | 0.057    | 0.057     |